

【表現と反応】の内容

言語	<ul style="list-style-type: none"> ●遊びのために自らの思いを言葉で表し、互いの考えを理解し合う。 ●言葉に対する感覚を養い、状況に応じて言葉を使い分ける。 ●言葉の特性や有効性、機能的側面に気付く。
アート	<ul style="list-style-type: none"> ●身体表現や音楽的表現、描画や造形などを通して自らのイメージを表現する。 ●アート表現を楽しみ、美しさや不思議さなどの感性を高める。 ●他者のアート表現に言葉や表情、行為で反応し、その良さを理解する。
情動表現	<ul style="list-style-type: none"> ●感じたことや内的状態を、言葉や表情、行為で表現する。 ●自他の情動を言葉や表情、行為から読み取り、理解する。 ●自らの情動を調節し、他者の情動に応じた言動をとる。

養護

園児の生命の保持と情緒の安定を図るために保育者が行います。園での生活全般の基底として3歳未満児の保育に養護を表記しています。

ねらい

0・1・2歳児	3・4・5歳児
次の三つの視点の順に設定しています。 <ul style="list-style-type: none"> ●生活する姿 ●遊びへの関わり ●人との関わり 	子どもの姿を受けて、前掲の四つの視点の順にねらいを設定しています。子どもの姿とねらいは必ずしも一対一対応にはならず、その期で特に重視したい点については、一つの視点に二つのねらいを表記していることもあります。

内容

0歳児	1・2・3・4・5歳児
三つの視点 「身近な人と気持ちを通じ合う」 「身近なものとの関わり感性が育つ」 「健やかに伸び伸びと育つ」 に基づき子どもの経験を表記しています。	5領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に基づき子どもの経験を表記しています。三つのコンセプト「判断と行動」「結い」「表現と反応」との対応を表のはじめに示しています。 2歳児から4歳児は「10の姿の芽生え」、5歳児は「10の姿」に特にかかわりの深いものを◎で表記しています。